

令和7年度医療型児童発達支援センター「のびっこワールド」事業所における自己評価結果

資料2

回収率100%

	質問	回答		工夫している点	課題や改善点
		はい	いいえ		
環境・体制整備					
1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9	1	・保育室の平米数に対し、利用児童+保護者+スタッフ+当日の活動内容を踏まえ一日当たりの利用定員を定め、グループ分けに基づき利用調整を行っており、スペースは確保しながら工夫している。	・令和7年12月からグループ別活動を本格導入し、ニーズや子どもの状況及び運動機能等に配慮しながら利用人数を調整し、部屋やスペースなどの構造化も工夫しているが、今後も安全で効果的な活動環境の調整が必要である。
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	4	・児童発達支援（親子通園）、居宅訪問型児童発達支援、地域療育等支援事業（保育所等訪問支援）を発達特性に合わせた安全な活動を並行実施するためには、職員人数増員させる必要性を感じる場面もあるが、当日の利用児童の発達状況、活動内容、保護者層に合わせてフレキシブルな対応や、職員配置と利用人数に応じて、保護者支援と本人支援を同時時間帯に行う工夫や協力しながら実施できている。	・グループ別活動を導入し利用人数調整を行うと共に、居宅訪問型児童発達支援や地域療育等支援事業（保育所等訪問支援）はのびっこサポート日等を活用し、職員配置を工夫しながら行っている。児童発達支援で親子別活動を行う際、双方の活動に人員が必要となるため、今後より工夫が必要である
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	4	・医療的ケア児の受け入れを考慮すると設備等の改善や、障がい程度に合わせた構造化に努めているが、より個別性に配慮した活動空間を考えると改善は必要。	・利用児の障がいの程度に合わせ、環境調整や活動空間の構造化の改善及び工夫を具体的に検討していく
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10		・活動内容により、使用場所を変える等工夫しながら子供に分かりやすい工夫を行っている。 ・子どもの目線で使いやすい空間を目指しながら、子どもの特性によっては刺激を減らし、季節感を味わえ、感触や音、更に動きが加わり楽しい空間を提供している ・毎日活動後保育室の消毒（玩具、遊具のアルコール清拭+床面の次亜塩素酸清拭）を実施している	・生活空間は子ども目線で工夫しながら、利用児が楽しめる空間を提供していく ・感染の流行期は集中的に次亜塩素酸による消毒を実施している。トイレ空間のゾーニングは至急取り掛かる必要がある
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	3	・個別対応が必要だと感じられる児には、活動場所を変える、ドアや仕切りを使用す等の工夫が実施されている。 ・当事業所では、5か所ある部屋（保育室3+肢体訓練室1+家族交流室）を活動内容に合わせて使用している	・今後も5か所の部屋を各活動目的に合わせて提供していく
適切な支援の提供					
6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	10		・主査・副査を明確にし、職員が主体的に担当業務の進捗管理が行えるよう工夫し、地域療育連携室職員も加わり、それぞれ専門職の視点で広く参画できている ・丁寧な日々の振返は良いが、時間配分については課題がある	・役割分担や地域療育連携支援室から相談支援専門員の出向日も加わり、支援への質の確保は出来つつあるが、話し合いに係る時間配分の改善が必要である
7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		・意見交換会、個別支援会議、普段の活動やパパママ会等を利用し保護者の意向確認する機会を設けている ・保護者からのご意見は全員で共有している ・今年度から利用者からのご意見及び事業所アンケートについて電子申請システムを導入した	・保護者意見交換会前に児童発達支援事業所アンケートを実施し、ご意見を頂き、今後も改善策を検討していく
8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	1	・日ごろからミーティングの機会は多く取られており、ミーティング等で共有が図れている。業務が多岐にわたりより工夫して行く必要性がある ・意見が言いやすい環境づくりを各々心がけているが、十分とは言えない	・引き続きスタッフ相互に会議等で意見を吸い上げることを意識し、風通しの良い職場環境を作っていく
9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	9	1	・療育センター内の各事業が第三者評価を受け、職員間で共有し、改善に向けて協議、検討している ・評価は実施されているが、業務改善につなげられている実感は無し	・毎年自己評価を行い業務改善に取り組むと共に、3年に1回の第三者評価受審に繋げていく
10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10		・職員の積極的参加が行われ、研修情報は随時共有し、研修参加後は復命と共に他職員に内容、所感を伝達している	・引き続き研修参加し事業への汎化や専門職としてのスキルを向上させていく。また、職員は様々な形態で勤務しており、参加し易い方法や出来る方法で研修参加を促していく
適切な支援の提供					
11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10		・個別に合わせた活動計画を行い、ホームページに公表されている	・ホームページに公表されており、今後も適時更新していく必要がある
12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	10		・目標に沿ったねらいを立て活動後に振り返り課題整理を全スタッフで丁寧に行い、支援計画を作成している	・適切なアセスメントも大切であるが、より簡潔でわかりやすい内容に改善し、保護者や関係機関へ伝えていく
13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10		・全職員でアセスメント、カンファレンスしている	・インフォーマルなアセスメントについては、特に職種間の差を埋めながら、今後も職員間で共有しながら検討を行っていく

14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10		・前日、当日、活動後の振り返りを行い計画を意識した活動計画を行い、療育ノートや保育日案でも計画内容を随時確認できるよう工夫している	・前日、当日、活動後の振り返りで職員間で共有を行い、活動計画に沿った支援を行っていく
15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	1	・発達状況によりKIDS、MEPA2を採用し、活動に取入れながら評価、観察している ・もっと、評価を行うタイミングをスタッフ間で意識し合えると良いと感じる。 ・行動観察は日頃から心がけているが、標準化されたツールは意識できていない。	・各専門職の視点を研修等で共有していく
16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10		・地域支援については、特に地域療育支援連携室の相談支援専門員とも相談、連携しながら行っている	・今年度は地域療育支援連携室の相談支援専門員との連携を強化し、のびっこワールドへ月6回程度出向し、相談員の立場から「本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域支援・地域連携」の支援内容を深めることができた
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10		・活動ベースは保育士が考案し、全職種で個別のねらい立て活動計画に繋げている。	・ねらいに沿ったグループ別活動を意識した活動プログラムの立案、修正を行っていく
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10		・月案（季節に合わせ）をもとに、日案は利用者に応じて変更す対応し、個別のねらいに合わせながら活動内容を振り返り等で検討工夫している ・発達上固定化する必要がある場合は、意図的に固定化することがある。	・年間計画及び月間計画を基に、四季を感じ家庭では出来ない体験等多職種でねらいに繋げながら工夫していく
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	10		・個別活動とわかるような形での実施はしていないが集団活動の中で個別への配慮を行っている	・こどもの状況に応じて、集団の中で個別を意識した活動を工夫しながら提供していく
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10		・ミーティングの時間をとり（20～30分程度）、共有する機会を設けている	・職員の勤務時間を考慮しつつ、打ち合わせにて情報共有の機会を引き続き設けていく
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10		・振り返りは、5領域+家族支援+地域支援に沿い丁寧に実施、共有する機会を設けている。一方で、時間がかかることが課題	・話し合いに係る時間配分の改善が必要である
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10		・個別支援計画作成に活かしやすいよう、5領域+家族支援+地域支援に記録している	・記録はポイントをしぼり、評価、振り返りに活用できる記録となるとよい
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10		・必要時には、時間をとり日々の活動（親子別活動）を使用したモニタリングも実施し、児童とその家族の関係者全員に声をかけ、個別支援会議を行った上で作成している ・見直しはしているが、登園日数の少ない児童に関しては、モニタリングが適宜行われているかは難しいところ。	・登園日数が少ない児童へは、ご家族や他事業所と連携を取りながら、家庭訪問等を行い、ニーズ把握に努めていく
関係機関や保護者との連携		はい	いいえ		
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10		・児童発達支援管理責任者を中心として必要な職種が参画し、会議内容は職員も情報共有し理解している	・今年度は児童発達管理責任者を中心に参加しているが、今後、他スタッフが参加する機会を作っていく
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10		・地域療育等支援事業（園訪問）、事業所訪問、見学受け入れ、個別支援会議の体制を図りながら、電話等で必要時いつでも相談、連携できるよう顔の見える関係づくりを日頃から心掛けている	・人事異動や年度変わりで担当者が変わっても、切れ目のない関係機関との連携強化に努めていく
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10		・保護者へ保育所や事業所及び学校見学の提案、同行、情報提供を行っている。 ・地域療育等支援（園訪問）で園訪問を行い情報共有を行っている	・相談支援専門員や市町村と連携を図りながら相互理解を行い関係機関連強化を図っていく
27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9	1	・今年度対象はなかったが、移行支援会議には必要な職種を選定し、参加している	・相談支援専門員や市町村と連携を図りながら相互理解を行い関係機関連強化を図っていく

28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	10		・通所支援事業所との連携は、所属外（地域連携室以外）との連携が不十分であると感じる。 ・三園児童発達支援センター意見交換会や西部圏域事業所情報交換会等実施し、情報交換会や研修の場をつながりをもっている	・地域の障がい児通所支援事業所に対するスーパーバイズ機能・コンサルテーション機能を発揮し取組を継続し行っていく
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	10		・年度初めに全職員の年間研修計画を立て、計画的に参加することで外部研修への積極的参加が行え、随時研修へも参加している	・年間の研修参加計画を立て、研修ファイルの活用や復命資料を振り返りスキルアップへ繋げていく
30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	10		・子ども部会は実施回数少なく、検討課題は放デイに内容が限局していた	
31 （み回答）	(31は、事業所のみ回答)			(31は、事業所のみ回答)	(31は、事業所のみ回答)
	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	9	1		
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	8	・以前は行っていたが、発達状況が多様であり、園の選定が困難であり、今年度は実施できていない	・目的を整理し検討をしていく
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10		・日々の活動中でしっかり共有し、必要な場合は個別相談の時間を設けている。一方で、対応職員ごとで対応が異なる場面はあるが、情報共有に努め修正を図っている。	・共通理解を目指してはいるが、保護者の方のとらえ方や理解と違うこともあるので、引き続き努力していく。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9	1	・保護者勉強会は定期的に行っているが、ペアトレ等の家族参加の研修の情報提供は行っていない。 ・今年度は職員がペアトレ研修に参加した他、ペアトレ見学を行った	・研修を行う場合は参加率をあげる開催方法等の工夫が必要 ・家族が参加しやすい保護者交流会に、ペアトレの要素を意識的に盛り込んでいるが、今後改善は必要。
保護者への説明等		はい	いいえ		
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	10		・契約時、または内容更新時に個別に説明している	・運営規定等は、児童発達支援管理責任者以外が対応することが少ないため、他職員含めた内容理解が必要。
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか	10		・個別支援計画作成前に個別アンケートの実施や、個別支援会議の場や、日々の活動時に、本人及び保護者の意向を反映し、意向確認する場を設けている。	
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	10		・半年に1回、個別支援計画見直しに係る会議を実施している	

38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者のみで来院して面談する機会や、必要時個別対応なども行い相談しやすい環境調整を行っている。 ・個別相談の他、サポートブック作成時、パパママ会、勉強会の機会を利用している 	
39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・2カ月に1回の定期保護者交流会のほか、年に1回先輩保護者と交流する会、家族参加日（きょうだい参加）を設けた 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は、きょうだい参加の機会は、行事の一つとして今後も計画できるとよい。
40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援専門員と連携しながら対応している ・ご意見は全スタッフで共有し、療育サービス向上検討委員会にレポートを提出している 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な相談や申し入れについて職員間及び・相談支援専門員と連携し共通認識した上での対応が必要である
41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9	1	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報に配慮した上で行っている。 ・今年度は更新が停滞し、ご意見をいただいたことがあった 	<ul style="list-style-type: none"> ・HPの「見易さ」については、整理したり、「のびっこQ&A」のようなものを作成するなど今後検討が必要
42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・インシデント事例を踏まえ、ホームページや療育ノート等、画像の使用は十分留意し、確実な個人情報保護に努めた。 ・保護者ニーズも大切に対応した 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報内容の確認については、契約時に加え年度毎に、引き続きご家族と確認を行う ・個人情報の取り扱いについては、部内で年間計画を立て、ヒヤリハット事例検討やKYTなど実施し、安全行動確認を強化していく
43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・療育ノートや画像を使用しながら、齟齬のない情報伝達に努め、必要時には、複数回の説明や個別での説明等の対応を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人のニーズを確認し、イラストや画像の活用等工夫し、配慮に努めていく
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	8	<ul style="list-style-type: none"> ・見学の受け入れは随時行っている。 ・感染症防止を鑑み難しい状況がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・当センターの感染対策基準に基づいて検討をしていく
非常時等の対応		はい	いいえ		
45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	1	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な想定で非常時訓練を利用者及び保護者を巻き込みながら実施している 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症マニュアルは周知されているが、防犯、緊急時マニュアルは、家族周知が十分ではないため、防災訓練は、引き続き利用者も参加型とし、防災意識を高めていく必要がある
46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な訓練の実施を行っている。 ・危機管理委員会を中心に作成し、年3回センター全体訓練を実施している 	<ul style="list-style-type: none"> ・BCPに関しては今後検討を重ねて行く必要がある
47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・入園前アンケートを作成している 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師が中心に担っている項目のため、不在時を想定し複数職員が状況把握への意識を高める必要がある
48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・看護師を中心に、家族から現在の摂食状況を聞き取り慎重に提供している 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が低年齢化しており、未摂取食品の有無についての確認は丁寧に実施していく ・看護師が中心に担っている項目のため、不在時を想定し複数職員が状況把握への意識を高める。
49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット（0インシデント）を出し合い検討をし予防策を立てた 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット事例検討やKYTなど実施し、安全行動確認の強化を行っている
50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9	1	<ul style="list-style-type: none"> ・説明をしているが、全世帯ではなく、不十分であると感じている 	<ul style="list-style-type: none"> ・危険を予知し、安全確保を家族と予見し対応を行っているが、予想を超える事案も起きており、インシデント0レベルでの検討対応が必要である。家族にも注意喚起をしながら支援を行う
51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・発生時には、職員間でのミーティングを行っている。 ・インシデントは24時間以内に通園部全体で共有、再発防止カンファを実施している 	<ul style="list-style-type: none"> ・危険を予知し、安全確保を家族と予見し対応を行っているが、予想を超える事案も起きており、更にインシデント0レベルでの検討対応が必要である
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な研修と自己チェックを行っている 	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・マルチチーム会を中心に丁寧且つ慎重に検討を重ね、センター全体として取り組むことができている 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、活動のねらいや安全面に配慮しながら十分な説明を行う